

地縁型地域組織活性化への道筋

「Break the Wall」チーム（ふるさとひょうご創生塾第15期生）

研究期間：平成23年4月～平成24年6月

1. はじめに

ふるさとひょうご創生塾の15期生「Break the Wall」チームは、実践企画として「地縁型地域組織活性化への道筋」というテーマに取り組み活動してきた。

日本の社会が経済的に成熟し、地域の人々の関係性が希薄になっている今日、改めて地域コミュニティのあり方が問われている。そのなかで近隣の人と人が支えあう地域作りをめざす地縁型地域組織(※)が活発に機能しているかどうかは極めて重要な問題だと思う。

私たちは創生塾のネットワークを活用してもらい、ヒヤリング(25名)とアンケート(119名)でその実態調査を試みた。その上で現状を整理し論点(自論)を構築して、出来るだけ大勢の人々に聞いてもらいたいとの思いから3回のプレゼンテーションを計画し、私たちなりの活性化への道筋を問題提起することにした。

地域での実践から得た原初的な気づきを基に、新しい知識を習得しながらの実践なので紆余曲折があったが、当初の疑問が果たして問題解決に向かっていたのか、私たちの実践企画の首尾と考え方の変遷も合わせてご覧いただきたい。

(※)ここでの地縁型地域組織は町内会・自治会をいう。

2. 活動の原点

— 団塊世代の地域参入時の意外な事態 —

A市に住む私は定年退職後、地域有志十数名と公民館の市民自主講座「安全安心のまちづくり」に参加した。まちの個々バラバラに活動している団体を繋げ一体感を醸成すること、老若男女誰もが参加出来る人と人の関係性を強化することを目的に2年間の準備期間を経て「防災フェスタ」を主催し、大好評(約2000名参加)を得た。これを継続させるためには有志の実行委員会方式では限界があり、イベント終了後、地域連協(小学校区の地縁組織)に提案するがこれがなかなかうまくいかなかった。地域をより住みやすくしたいと思い、新たに行動しようとしたが閉鎖性の大きな壁がたちだかった。これがその後三年経過した今日のテーマの出発点になる。

3. 創生塾でのアプローチ

私の問題意識と共有できるヒトとチームを組み実践活動への企画書作りに着手する。しかし、いざ実践となると、この地縁組織をテーマにする事はなかなか難しく人によって感じ方が多様で、創生塾内でも関心度合いに大きな偏りがあった。そもそも地縁組織はこれまでそれほど気に留めなくて済んだし、時代遅れの存在として見過ごされている向きもあった。そんな中で先ず地縁組織の実態を県下広く把握しようと、創生塾の人脈でヒヤリングシートによる対面取材(25件)を試行した。

ヒヤリングシートの抜粋例

訪問先名	〇〇自治会連合会
面談相手	〇〇会長
今の問題点	旧村と新興の混在。区の連合会長になれない
役員選定法任期	単組新旧会長による選挙・・・・・・・・
活動内容	ふれまち会報、時間預託共助の仕組・・・
要望の吸上げ	区政懇談会、活動すれば苦情ドンドン・・・
テーマ型連携	自活動の延長進化・・・
行政連携	市職員、会議に無関心・・・

だが、同じ地縁組織でも属性の違い、例えば役員かどうかで見方が違うとか、都市部と農村部では地域特性が違いすぎる等々の異論が、私たちの活動を指導するふるさとひょうご創生塾の企画運営委員から続出した。事実、人口の多い都市部と過疎部とでは地域観に大きな差があることは聞き取りで改めて知った。

しかし私たちの狙いは地縁組織の実態をあまねく把握しようとするのではなく、活動の出発点で私たちの意識が、独りよがりであったり先入観にとらわれてないか、つまり私が感じた閉鎖性(参入障壁)や耳にする前近代的な運営が特殊なものなのか、あるいはよくあるケースなのかを事実で知ることにあつた。多少回りくどいが実践の基本手順を踏もうとした。この場合一般的にいわれている地縁組織の「役員の高齢化」「固定化」「不透明性」「非民主的運営」等の実態が分かれば良いと考え、後半はアンケート方式に切り替えた。

アンケート項目(抜粋)

タイトル：あなたの町内会(自治会)元気度アンケート
Q1. あなたの町内会(自治会)は元気ですか？
① 活性化している② どちらでもない③ 問題多い④ 関心ない

Q2. 町内会(自治会)の問題点は
① 役員の高齢化②固定化③透明性④非民主性⑤他

Q3. 上記問題点の解決策
Q4. 町内会(自治会)の存在意義はなんだと思いますか?
① 協働と参画②自助共助③地域問題共有④地域の代表
Q5. 町内会(自治会)の今後に可能性を感じますか?
Q6. 町内会(自治会)への行政の対応は?
Q7. 町内会(自治会)の希望像は?